

教団新報

定価 1部150円(本体137円+共214円)
予約購読料 1年分 千共 5,350円
紙代のみ 3,750円
振替 00140-9-145275
本紙を購読ご希望の方は、前金を
そえて、お近くのキリスト教書店
へお申し込み下さい。
教会の購読料は負担金に含みます。

発行所 日本基督教団
169-0051 東京都新宿区西早稲田2-3-18
日本キリスト教会館内 電話03(3202)0546
FAX03(3207)3918
URL http://uccj.org
発行人 秋山 徹
編集主筆 嶋田 恵悟
印刷所 株式会社きかんし



ホテルメトロポリタンで

第41総会期

常議員会

第15回

第42回教団総会、ホテル以外の候補も検討

第15回常議員会が、10月25〜26日、ホテルメトロポリタンで、開会時、常議員26名が出席して行われた。教団総会が延期され、昨年ホテルの使用をキャンセルしている状況で、今年度、完全なキャンセルをすることは難しく、今後の予約も取りづらくなることを受けて、常議員会をホテルで開催することとなった。三役の他8名の常議員が会場で、その他の常議員はオンラインで出席した。

総幹事報告において秋山徹総幹事が、新型コロナウイルス感染拡大に関して、2020年度の統計データによれば、現住陪餐会員に増減はないものの、集会の出席率の大幅な減少が見られること、「オンライン礼拝」

機構改定

前提の変化を考慮し、協議会を開催

について、オンライン化に伴いあらゆる職務分野において変化が生じていることに触れ、「合理化をはかり人件費の削減に努める」と述べた。

教師養成制度検討委員会の報告では、東野尚志書記が、教師論が可決されたことを受けて神学校を訪問したことを報告。

議場からは「教師論は、教団の歴史認識、聖書についての視座が欠けている。基準にされて行くことを危惧する」、「個別に訪問するのではなく、神学校の代表者が集まり委員会と対話することも必要」等の意見があった。

第42回日本基督教団総会開催の件では、場

教団伝道対策検討委員会の報告の中で、教団機構改定について議論があった。まず、雲然俊美書記は、10月12日にオンラインで開催した委員会の報告をした。

機構改定・関連教規変更スケジュールの見通し

について、「22年2月、第16回常議員会で原案審議。4〜6月、各教区総会で協議・意見集約。7月、第17回常議員会で議案審議。10月24日、第18回常議員会で教団総会への上程議案を検討。10月26〜28日、総会で議案審議」と述べた。

また、委員会の中で「コロナにより変化した教団の財政状況のまとめが必要」、「教区総会が短時間の開催となった場合、協議時間を持つことは難しい」等の意見があったことを報告した。

出版局

早急なITの整備が必要

出版局関連ではまず2021年度上半期の経営状況についての報告が行われた。飯光局長代行はコロナ禍の影響で厳しい状況にある旨を述べ、具体的な数字については大谷経理課長から説明があった。それによるとコロナ禍の影響に加えて新刊点数が少なかったため、8月までの売上は前

年度比で約520万円の減少。一方で売上原価が600万円、販管費も140万円余りそれぞれ増加しており、8月末現在で1700万円余りの赤字が発生している。売上減の対策として職員の提案により、教会から献金を募りクリスマスに学生へ書籍をプレゼントする企画等を準備中であ

ると報告された。次に出版局経営改善について取り扱われた。まず経営改善プロジェクトの活動に関して加藤真澄プロジェクトマネージャーが報告した。加藤マネージャーは業務の棚卸しとして各部署の業務内容と、どれくらいの間をにかけているのかについて職員に聞き取り調査

を実施。その結果、多くの無駄が浮き彫りになった。その原因として旧式のオフコンを未だに使用している環境が不備であることを指摘。在庫や資産の管理が適切かつ効率的に行われず、それに起因して複数の部署で本来の業務よりも会議資料の作成に多くの時間が割かれ、課長が長時間の残業

を強いられている。特に編集部署では企画作業に僅かな時間しか取られていないという事態も起きている。加藤マネージャーはこのままでは経営改善を始めることは不可能として、早急なIT環境の整備が必要と訴えた。

続いて雲然俊美書記より出版局ステアリング・コミティの報告があった。第14回常議員会以降に3回のミーティングを開催し、信徒の友配布伝

報告に対して、機構改定の前提であった、これまでの教団財政の見通しが大きく変わって来ているとの指摘があった他、「常議員会の議事として協議すべき」、「常議員会が責任をもって原案を作って行かなくてはなら

ない」等の意見があった。石橋秀雄議長は、「財政的に逼迫しているというところで始まったが、その状況が変わって来た。意見を委員会を受け止める」と述べた。

久世そらち副議長は、「予算決算委員会の見通し等の材料を整えた上で、協議会のようなものを開催し、意見をもとに2月の常議員会に提案す

所について、他の候補も検討する」との修正案が30名中23名の賛成で通り、「出来るだけ早く臨時の常議員会を開催することが確認された。

2020年度伝道資金交付金残余処理については、交付金の残余429万4108円について、内129万4108円は、「土地取得貸付資金」に積み立て、残りの300万円は、2022年度伝道資金教区負担金総額の減額分とすること

が提案された。これに対して、「残りの300万円について、交付を受けていない2教区に負担金の負担割合に応じた額を還元する」との修正案が出されたが、少数否決となり、原案を可決した。2022年度教団歳入事業活動収入において、教区負担金を10%減とし収入計2億6900万3千円。支出においては、委員会費を60%減。



コロナウ
イルスの感
染拡大を受
けて、教会
では礼拝の
動画を配信
するようになった。ある
教会員が、これまで教会
に来ることが無かった家
族が関心を持って観てい
るとの報告をしてくれ
た。嬉しく思うと共に、
教会に関心を抱きなが
ら、教会には来ない人が
ごく身近にいるというこ
とを改めて知らされた。

「教会の敷居が高い」という言葉をしばしば耳にする。罪ある人間が集められ、群れが形成される時、そこに馴染めない人も生まれる。先にいる者の交わりが、後から加わろうとする者に疎外感を与えてしまうこともある。ただ私たちが御言葉を聞き、罪を悔い改めつつ、へりくだり、隔ての壁を取り除くキリストの愛に生かされる時、福音が伝わる。▼礼拝の動画配信により起こった状況は、新たな試みが、伝道のために有用な手段であることを示すと同時に、これまで主の体を形成して行く時に、担うべき重荷を、充分に担えていなかったことを示しているように思う。▼オンラインを活用すると共に、安易な情報伝達を伝道とはき違え、真の課題と向き合うことがおそかになり、状態を前よりもっと悪くしてしまうことだけは無いようにしたい。

(米山恭平報)

(新報編集部報)

(新報編集部報)

新型コロナウイルス 感染拡大の渦中で

神学校からの声に聞く

橋本 祐樹《関西学院大学神学部准教授》

コロナ禍での神学教育



は授業動画等のオンデマンド方式)でしたが、秋学期以降は予防対策を実施しながら対面授業の数を増やしてきました。

現在はマスク、手指消毒、人数制限等の予防対策を変わりなく実施の上で、神学部の授業は基本すべて対面で行い、健康上心配のある学生は申し出によってオンラインで受講できるという形態を取っています。多くの授業では、大部分の対面出席者を前に、パソコンとプロジェクトを設置し

2020年4月に最初の緊急事態宣言が発出されてから今日まで、関西学院大学神学部は大学全体の方針に基本的には則りながら神学教育のオンライン対応を実施してきました。2020年度春学期はほぼ全ての授業がオンライン形態(ズームでの同時双方向、もしくは

て画面上の少数の学生にも並行して対応している状況です。ただし、一部の授業については後に触れるように積極的な意図をもってオンライン化しているケースもあります。

個々の状況に触れますと、昨年度は突然のオンライン化に学生側の戸惑いや不安感が大きく、一年生を中心にオンラインでの個人面談と交流を繰り返して実施しました。またオンライン授業中心の時期には、学生の信仰

面、精神面でのニーズの認識をも背景に、チャペルメッセージ動画をオンライン配信しました。

夏期派遣と神学校日の説教奉仕については昨年度実施できませんでした。が、今年度は、前者は教会側より希望を受ける形で教を絞って実施し、後者については学生9名と教員2名が計14教会で奉仕しました。

神学生の働きとして、例えば対面礼拝に力点を置く教会での精力的な奉仕、オンラインに力

点を置く教会での技術的な貢献等を聞いておりま

す。

以前にはなかった国際的な学習と交流が始まっています。

学部後援会や同窓会との関連まで含めて言えば、例年実施する教師と信徒に開かれた研修会である「神学セミナー」、教師の継続教育を主眼とする「MSセミナー」(MS=メソジスト・ソサイエティ)、そして神学部との関わりの中で若者に向けた学びと出会いの機会を提供する「関学ユースキャン」の何れもが同様の技術的展開を享受して今年度は(対面に加えて)オンライン化し、従来なかった幅のある参加を得ています。

神学教育の前進のためどうかお祈りください。

原田 彰久《東京聖書学校舎監》

新しい歌を



「新しい歌を主に向かって歌え。全地よ、主に向かって歌え」(詩編96編1節)

2020年の前半から流行し始めた、新型コロナウイルス感染症(COVID-19)は、それまでの生活を二変させる出来事でした。

東京聖書学校も、こう

した中で、新しい出来事の連続でした。2020年4月に新入生を迎えて始まった新学期は、一部の講師を除き、ほぼオンライン授業となりました。こうして学生はもとより、教授や講師も、何から手を付けたらいいのかわからない状況でした。そして現在は、学校の配信設備等を整備し、新たなあり方に対応しつつあります。また神学生は、年度初めに学校から日曜日の実習教会を指定して派遣されます。しか

し県を越えての移動が制限され、礼拝の配信も教会毎に異なることから、大きな困難を抱えました。こうした状況は想定されておらず、また急なことでは何の準備もありませんでした。それでも小さな神学校でしたので、何とか1年を過ごし、卒業生を送り出しました。このような中で、神学校も教会も新しい時代、いわゆるニューノーマルを迎えるのでありましようか。

例えば、19世紀北アメ

リカのリバイバル運動では、礼拝に大きな変化が生じました。リバイバルの父と呼ばれたチャールズ・フィニーは、彼の「新案(new method)」に基づく実用主義の礼拝を展開します(ホワイト「プロテスタント教会の礼拝」、328ページ以下参照)。また海外伝道が盛んになり、日本に福音主義教会がもたらされました。そこでは「口語式文」の礼拝順序Iに代表される簡易な礼拝が行われているので

はないでしょうか。一方で、反リバイバル運動として「マーズバーク神学運動」が起こり、あるいは今日の典礼主義的な礼拝改革につながったと言えるでしょう(ヘイゲマン「礼拝を新たに」、148ページ以下参照)。

過日も「日本ウエスレー・メソジスト学会」で、新型コロナウイルス感染症流行下の聖餐について興味深いパネルディスカッションがなされました。日本基督教団において、バプテスマを受けた者が聖餐に与かる教会の形成、礼拝のあり方に向けて、神学校もまた、新たな学びが求められていると思わされました。

新しい年度に向けて、献身者が起こされ、神学生を迎えたく願っています。

こうして私たちは「新しい歌を主に向かって歌え」と呼びかけられています。そこでは日本基督教団信仰告白に基づき、規範としての聖書を重んじつつ、歴史を通して形成されてきた教会のあり方を考えなくてはならないでしょう。よく知られた二バーの「変えることのできるものを変え、勇気と、変えることのできないものを受け入れる冷静さと、変えるものと変えることのできないものを識別する知恵を与えたいま」との祈りを想います。

新しい年度に向けて、献身者が起こされ、神学生を迎えたく願っています。

瀬戸 英治《農村伝道神学校事務長・オンライン特任教師、鶴川教会牧師》

新たな宣教の手段と課題



時限に3教科がある場合もある。専門のスタッフを配置する余裕もなく、学内の環境も整っていない中、手探り状態で始めた。授業中に何度も画像が止まってしまふことも多く、そのため学生からオンライン授業への不満が多く寄せられた。

現在は対面とオンラインの「ハイブリッド」授業になっている。一年半を経て、さすがに学生もスタッフも慣れて違和感も少なくなってきた。

コロナ禍では授業だけでなく、本校独自の農業実習や他の実習も大きな影響を受けた。例えば台湾の原住民族の神学校である玉山神学院との学生の交換交流が中止となった。また計画中にカナダ合同教会との交流も中断せざるを得なかった。これらは学生にグローバルな、そして多様な宣教を学ぶ貴重な機会であった。

この他にもコロナ禍で失ったものは数々ある。しかし気付かされたことと、新たに得たこともある。

本校の授業の多くは2名から5名である。これはオンラインになってからはオンラインになって

も、若干のタイムラグを気にしなければ、対面と同じように意見交換が可能です。講師や学生が学校から遠くにいるにもかかわらず、対面と同じように授業ができる。場所が限定されないということは、何らかの

事情で神学校に来ることのできない献身者でも学ぶ道があるということである。実際、Cコース受験者が聴講生として一部の授業に参加している。

また神学校間を超えての授業さえ可能になる。違う神学校の学生がオンラインで同じ授業を学ぶということは、教団の宣教に大きな変化をもたらすに違いない。またホットな宣教課題をオンラインで学ぶこともできるし、信徒の学びにも大いに利用できると感じている。

一方、本校が大切にしている共同性をどう担保するかが大きな課題となっている。オンラインでの学びは確保されたとしても、授業外での交わりは確保されない。学生同士のたわいもない話や意見交換、遊びによって得られるものによって形成される関係性が大切に感じられる。

教会の現場でも同様だろう。コロナ禍によって教会もオンラインという新たな宣教の手段を手に入れた。しかし主の体なる教会としての共同性をどこでどう養うのか、これは教会の死活問題かもしれない。

神学校は教師養成だけではなく、宣教の課題に答える役目がある。ウィズ・コロナ時代の宣教をどうするか、神学校の在り方自体がその答えになるような対応ができればと思う。

2	周陽教會氣付	周南市代々木通り2	徳山 千745—0073	教會通信先變更	名古屋堀川	三里塚、	教會通信先削除	5—5	7 白岡市小久喜81	白岡菫蒲 千349—021	—17	東京郡渋谷区桜丘町8	中渋谷 千150—0031	教會所在地變更
---	--------	-----------	--------------	---------	-------	------	---------	-----	------------	---------------	-----	------------	---------------	---------

三田衆人

周易文会气廿

2021 年東北地方地震 被災教会会堂等再建支援委員会 東北教区・関東教区 10 被災教会の声 (オンライン訪問)



川俣教会
写真中央、牧師(左)
と教会員2名



福島新町教会
写真中央、牧師(中
央)と教会員2名

川俣教会を訪ねて

今回は、10月5日午前中に、山あいの町、福島県伊達郡川俣町にある川俣教会とオンラインで結び、お話を伺った。

川俣教会からは、鈴木稔久牧師、のぞみ夫人、信徒の菅野幸子姉、2021年東北地方地震被災教会会堂等再建支援委員会より、篠浦千史委員長、黒沼宏一委員、河田直子委員、オプザバーとして道家紀一担当幹事、星山京子職員が参加した。

初めに、地震発生時の状況を鈴木牧師に伺った。2月13日夜11時7分に、翌日の礼拝に備えて休もうとした時であり、10年前の大震災と同じような強い揺れを感じたが、時間としては3分の1程度の短さだった。しかし、すぐに会堂に行く

なったり、瓦屋根の漆喰が落ちて瓦がずれたり、という修繕すべき箇所が出てきている。10年前の被害の再建借入金返済の終わらないままの今回の被災で、後からも出てくる被害にがっかりしているが、いまは日本のどこでも起こりうるのだと思う、教団から助けていただき、守られていることに感謝している。

また、2019年10月の台風19号による大雨で近くの川が氾濫し、会堂が浸水して、その対応にご苦労されたことも話された。牧師夫妻も、近隣の避難所に移って過ごされたということで、どんなに不安であったことかと思われた。事後の浸水処理のご苦労もあつた後に、また地震被害となり、何度も見舞われる災害に、それでも教団に属しているからこそ支援があり、全国の教会から祈られ交わりがあることに感謝していると話され

福島新町教会の方々にお話を伺って

今回は福島新町教会の方々に、10月5日の午後1時30分から約1時間、オンラインでインタビューを行った。

瀧山勝子牧師、役員の時任史子姉と加藤睦子姉の3名に近隣の信天教会に集まっていたとき、支援委員会より篠浦千史委員長、河田直子委員、黒沼宏一委員が、オプザ

と壁に掛けられていた大きなガラスの時計が落ちていて、床一面にガラスが散らばり、あちこちに物が落ちていた。「礼拝に来る人や子どもがケガをしてはいけない、礼拝堂を整えなくては」と重い椅子を動かし、散らばったガラスを集めるのが精一杯で、3時過ぎまでかかったという。翌朝、牧師がどうなるやらと思っていると、「古い大きな教会で、独り暮らしの牧師がさ困っているだろう」と、朝7時過ぎには教会員何人かが駆けつけてくれた。おかげで礼拝堂は片付き、いつものように礼拝を守ることが出来た。出席者もいつも通り集まり、感謝の中で礼拝が行われた。礼拝後に皆で会堂を点検し、正面の壁の大きなひび割れをはじめ、内外の壁のひび割れ、あらゆるところに印を付けておいた。そして3月20日土曜日に再び地震発生。「これは何だろう」という思いだった。印を付けてあった所は更にひどくなり、新たなひび割れが増えてしまったということだ。

時任姉・加藤姉はじめ教会員の家もそれぞれ被害があったが、10年前の東日本大震災よりは被害が少なかったという。ただ、揺れの方向が違ったせいで10年前には被害のなかった所が今度はひどい状態だったそうだ。福島新町教会は福島駅から徒歩10分の便利なところであり、創立123周年の伝統ある教会。会堂は築93年でヴォーリスの設計。会堂は大きく、いくつもの部屋がある。10年前の修復で、塔を取り壊し、屋根は瓦を銅板に葺き替えた。それが今回は幸いした。「せっかく元通りに修復したのに……もう一度直そう」と皆で工務店を探した。外の石塀が倒れると危険なので、先ず塀の工事に取



内田眞一郎さん

信仰により喜ぶ



1938年横浜生まれ。横浜明星教会員

内田さんはいつも笑顔だ。高校3年の時、友人に高校生聖書伝道協会(J.H.S.)に誘われた。初めはあまり乗り気でなかったが、始めると休まず継続する性格で、讃美歌の魅力に触れて通い詰めた。大学ではYMCAで活動。ある修養会で「わが神、わが神、なぜ私をお見捨てになったのですか」について講師の牧師に質問した。すると「君は祈ったことがあるか」と問われ「ない」と答えると牧師は四つん這いになって祈り始め、その言葉を繰り返すよう促した。これが初めての祈りとなり祈られて祈りを知った。1957年のイースター。横浜明星教会に初めて出席して洗礼式を見た。翌年4月のイースターに大学2年で川又吉五郎牧師の司式により受洗。転勤先で通っていた教会で知り合った信仰者の妻との結婚式も同教会で行い、与えられた3人の息子も受洗し孫たちも時々礼拝に出席する。青年時代にワークキャンプでナオミホームの下水工事や教会の奉仕によって引込み思案だった自分が変えられていったという。書記役員として長年奉仕し、集会では名司会で皆を楽ませる。最近「教会とわたし(仮)」と題して教会の歴史をまとめ終えた。

120頁を越える。

会社勤めから鮮魚仲卸業を経て、横浜共立学園で下支えする裏方の仕事をし、神奈川教区事務所では9年事務方として働き全体教会のためにも祈り仕える機会を得た。

「信仰という揺るぎのないものを与えられて良かった」と語る。愛語聖句は「いつも喜んでいなさい。絶えず祈りなさい。どんなことにも感謝しなさい。これこそ、キリスト・イエスにおいて、神があなたにたに望んでおられることです」(一テサロニケ5・16〜18)、笑顔の源は神さまの言葉であり応答なのだ。

今月10月13日に77歳になりましたが1944年生まれで44歳と云っています。自分の年は自分で決めて、そのように生きればよいと思っています。

ジャーを紹介していました。全米運動会のバトミントンの部門で90歳の人が優勝したり、弁護士として、コメディアンとしてバリバリ第一線で働くスーパー

スーパーエイジャーになる

エイジャーたちです。

聖路加国際病院の院長だった日野原重明先生の講演を聞いたことがあります。その講演の中で「母から受けたDNAのすべてを使っていない、自分の課題

は自分に与えられたDNAの発見だと言って、90歳を超えて絵本を書き、90歳を超えてオペラに挑戦しました。日野原重明先生ご自身が105歳までスーパーエイジャーとして働き、召されました。越谷教会で90歳を超えてバリバリ働くスーパーエイジャーになると宣言をしました。そうしたら柵橋千恵美副牧師が「人の迷惑考えずにスーパーエイジャーになるなどと、恐ろしい」と言われてしまいました。

(教団総会議長 石橋秀雄)

東北地方地震被災教会支援募金

郵便振替口座

◎口座名 日本基督教団

◎口座番号 00140-9-145275

通信欄に「東北地方地震被災教会支援」とご記入ください。